

ミッション		項目名	最新値	目標値 (R10年度・2028年度)	目標値の考え方(ミッションとの関連)、理由	公表最新値の出典		
プランの位置								
1 「全 居心地のよ い学校」を つくる	KPI		学校に行くのは楽しいと思うこどもの割合	小学生:83.8% 中学生:78.9% (R5年度)	小学生:90.0% 中学生:85.0%	学校に行くのは楽しい=居心地のよい学校を測る指標。 子どもが安全に安心して楽しく学校に通うことができるように するための取組の成果を見るため、指標とするもの。	全国学力・学習状況調査	
	【参考指標】	(2)	—	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談 できる。	小学生:62.5% 中学生:65.1% (R5年度)	小学生:65.0% 中学生:70.0%	いつでも相談できる=居心地のよい学校を測る指標 子どもが安全に安心して楽しく学校に通うことができるように するための取組の成果を見るため、指標とするもの。	全国学力・学習状況調査
		(2) (3)	—	学校生活の中で「こわいな」「不安だな」と回答した児童・生徒の割合	小学生:23.1% 中学生:21.8% (R5年度)	小学生:15.0%以下 中学生:15.0%以下	アンケートで子どもたちが「こわい」「不安」と答えなくなる。学 校は「安心して過ごす」ことができ、「居心地の良い学校」である ことを示す指標。	次期教育プラン策定のため のアンケート結果(児童・生 徒アンケート 問1-)
		(3)	—	「勤務する学校が、こどもにとって安全・安心な居場所になっている」 と回答した教職員の割合	65.5% (R5)	85.0%以上	大人(教職員)から見ても、学校がこどもたちにとって安全・安 心な居場所になっている=居心地の良い学校であることを図 る指標	次期教育プラン策定のため のアンケート結果(教職員ア ンケート 問9)
		(3)		学校施設老朽化対策事業(大規模改修及び外壁改修)の工事校数	47校 (R1~5年度)	50校 (R6~10年度)	学校施設における最低限の安全性の確保を測る指標。 (外壁改修を、学校施設長寿命化計画に定める20年周期で行 えているかを見るもの。) 200校÷20年×5年=50校	教育委員会調査
2 志こども 人間が力を 失を敗を恐 れられず挑 戦し、 つくる	KPI		将来の夢や目標を持っているこどもの割合	小学生:81.1% 中学生:66.8% (R5年度)	小学生:85.0% 中学生:70.0% (政令市一位の水準を目指す)	夢や目標を持つ=失敗を恐れず挑戦することも測る指標 子どもの意欲の向上や、子どもたちが「生きる力」を身につける ための取組の成果を見るため、指標とするもの。	全国学力・学習状況調査	
	【参考指標】	(1)	—	「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した児童・生徒の割合	小学生:95.7% 中学生:94.4% (R5年度)	小学生:95.0% 中学生:95.0%	人の役に立とうとする子ども=志の高いこどもを測る指標 自己肯定感や、自己有用感など、子どもたちが「生きる力」を身 につけるための取組の成果を見るため、指標とするもの。	全国学力・学習状況調査
		(2)	—	「挑戦したい気持ちはあるが、失敗が怖い(恥ずかしい)ので挑戦した くない」と回答した児童生徒の割合	小学生:24.1% 中学生:23.1% (R5年度)	小学生:15.0%以下 中学生:15.0%以下	失敗を恐れて挑戦できない環境を改善することで、柱2の実現 を図る。	次期教育プラン策定のため のアンケート結果(児童生徒 アンケート 問5-)
			—	「5年前のこどもと比較して、困難にくじけず対応する力が劣ってい る」と回答した教職員の割合	37.0% (R5)	20%以下	教職員の視点からも、こどもたちがレジリエンスを獲得できて いるかを判断する指標	次期教育プラン策定のため のアンケート結果(教職員ア ンケート 問2)
		(3)	—	「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした」と回答した 学校の割合	小学生:84.5% 中学生:98.2% (R4年度)	小学生:90% 中学生:100%	将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした=アント レプレナーシップ教育による人材育成を進めた=地域とのつな がりの中で、社会全体でこどもを見守り支え、育てるを測る指 標 アントレプレナーシップ教育を通じて、進路選択の幅を広げる取 組の進ちょく度合いを見るため、指標とするもの。	全国学力・学習状況調査
		(3)	—	「学習を通じて、自分がしたいことが増えている」と回答した生徒の割 合	77.8% (R5年度)	80%	学習を通じて、自分がしたいことが増えている=失敗を恐れず 挑戦することも測る指標 高校生の学習意欲や将来に対する意識を指標とするもの。	高校魅力化評価システム
(4)		図書館の利用者満足度(中学生以下対象のアンケートの「読みたい 本の有無」、「調べ物に役立つか」、「職員の知識・説明」の3項目)	93.2% 93.4% 95.7% (R4年度)	各項目で90%以上	利用者の満足度から、児童生徒の学びに対する図書館の貢献 度を図るため、指標とするもの。	図書館利用者アンケート		

ミッション		項目名	最新値	目標値 (R10年度・2028年度)	目標値の考え方(ミッションとの関連)、理由	公表最新値の出典	
プランの位置							
3 誰一人取り残さない学びと、未来を見据えた先端的な学びを進める	【参考指標】	KPI	授業が自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていると思うこどもの割合	小学生:81.7% 中学生:73.6% (R5年度)	小学生:85.0% 中学生:80.0%	自分に合った授業=誰一人取り残さない学びを測る指標。子どもたちの主体的な学び、個別最適な学びを推進するための取組の成果を見るため、指標とするもの。	全国学力・学習状況調査
		(1)	全国学力・学習状況調査結果の平均正答率	【小学校】 男子:52.55 女子:54.12 【中学校】 男子:42.89 女子:48.27	前年度以上	基礎学力向上施策を通じて、その向上が図られているかを判断する指標	全国学力・学習状況調査
			「5年前のこどもたちと比較して、こどもの基礎学力が劣っている」と回答した教職員の割合	39.4% (R5)	20%以下	基礎学力向上施策を通じて、教職員の視点からも、学力の向上が図られているかを判断する指標	次期教育プラン策定のためのアンケート結果(教職員アンケート 問2)
			「先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて分かるまで教えてくれていると思う」と回答した児童生徒の割合	小学生:91.8% 中学生:88.7% (R5年度)	小学生:95.0% 中学生:90.0%	分かるまで教える=誰一人取り残さない学びを測る指標。子どもたちの主体的な学び、個別最適な学びを推進するための取組の成果を見るため、指標とするもの。	全国学力・学習状況調査
			「5年前と比較して、こどもの体力が劣っている」と回答した教職員の割合	43.3% (R5)	20%以下	体力向上施策の実施を通じて、教職員の視点からも、体力の向上が図られているかを判断する指標	次期教育プラン策定のためのアンケート結果(教職員アンケート 問2)
			全国体力・運動能力調査結果の体力合計点	【国語】 小学校:64% 中学校:66% 【算数・数学】 小学校:61% 中学校:47%	前年度以上	体力向上施策の実施を通じて、その向上が図られているかを判断する指標	全国体力・運動能力調査結果
			う歯のない生徒の割合	64.38% (R5年度)	67.9%(R8年度)、増加傾向	むし歯のない生徒の割合を測る指標。「学校における歯と口の健康づくり推進計画」を推進していく上で、取組みの成果をみるための指標とするもの。	学校保健統計調査
			肥満傾向児の割合[小5男子]	15.40% (R5年度)	全国平均値以下	肥満傾向児の指標。	肥満度調査
			肥満傾向児の割合[小5女子]	11.92% (R5年度)	全国平均値以下	肥満傾向児の指標。	肥満度調査
			痩身傾向児の割合[中学校女子]	3.28% (R5年度)	全国平均値以下	痩身傾向児の指標。	肥満度調査
			学校給食をおいしいと感じている児童生徒の割合	72.6% (R5年度)	80.0%	児童生徒が学校給食をおいしいと感じたかどうかを測る指標。学校給食の質の向上を実施するにあたり、実際に学校給食を食べた児童生徒の意見を把握し、おいしいと感じてもらえたかどうかを見るため、指標とするもの。	教育委員会調査
		(2)	いじめの解消率	97%(R4)	100%	問題行動の未然防止や早期の解決を図るとともに、長期化する場合の支援など様々な段階での取組を行うことで、いじめを解消し、居心地のよい学校をつくる指標とする。	児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査
			スクールソーシャルワーカーによる事例の解決・好転率	54%(R4)	前年度以上	SSWが不登校、いじめ、虐待など、様々な課題等を抱える児童生徒の支援を行うことで、課題解決の指標とする。	教育委員会調査
			居住地の校区外の特別支援学級に通学している対象児童・生徒の割合	小学校:9.2% 中学校:17.9% (R4年度)	小学校:8.0% 中学校:15.0%	特別支援教育の推進にあたり、一人一人の教育的ニーズに応じた学びの場の整備を図るため、対象児童・生徒が居住地の校区内の特別支援学級に通うことができているか把握するため、当該指標を設定するもの。	特別支援学級実態調査
		(4)	中学校卒業段階で、CEFR A1レベル相当(英検3級など)以上の生徒の割合	46.9% (R4年度)	60%	中学校卒業段階で、CEFR A1レベル相当(英検3級など)以上=誰一人取り残さない学びを測る指標 中学校卒業程度の英語能力の取得状況を見るため、指標とするもの。	英語教育実施状況調査
		(5)	学校教育活動全体の中で、週3回以上GIGA端末を活用する割合	小学生:51.2% 中学生:42% (R5年度)	小学生:100% 中学生:100%	GIGA端末の活用によって、個別最適な学びや協働的な学びが実現されるため、資料とするもの。	全国学力・学習状況調査

ミッション		項目名	最新値	目標値 (R10年度・2028年度)	目標値の考え方(ミッションとの関連)、理由	公表最新値の出典	
プランの位置							
4 教職員で自律的 で特色ある学校 づくりを進め、 ウェルビーイング を高める	KPI		こどもと向き合う時間を確保できていると 感じている教員の割合	64.7% (R5)	80%	業務改善などを通じて、教職員が一番に取り組むべきこどもと 向き合う時間を確保できているかを測るもの。	教育委員会調査
	【参考指標】 (1) (2) (3)	日々の仕事にやりがいを感じている教員の割合	87.7% (R5)	95%	自律的で特色ある学校づくりを進め、教職員のウェルビーイング を高めるためには、教員がやりがいを持っているかが重要な 要素となる。	教育委員会調査	
		研修振り返りシートの総合評価(4段階評価) (研修が有意義であったか、新たな気付きがあったか、今後の教育活 動につながるか、今後の自己研鑽につながるか、など)	3.8 (R4年度)	3.9	自律的で特色ある学校づくりを進め、教職員のウェルビーイング を高めるためには、教員の資質向上が必要不可欠であり、受 講者にとって資質向上につながる研修であったかの効果を見 るため、指標とするもの。	研修振り返りシート	
		「学校で主体的・対話的で深い学びを実践できている」と回答した教 職員の割合 (または、「できていない」「あまりできていない」と 回答した教職員の割合を減らす)	6.7% (R5)	20%	時代の要請に応じた教職員の質の向上が図れているかを判断 する。	次期教育プラン策定のため のアンケート結果(教職員ア ンケート 問5)	
		「学校で個別最適・協働的な学びを実践できている」と回答した教職 員の割合	7.4% (R5)	20%	時代の要請に応じた教職員の質の向上が図れているかを判断 する。	次期教育プラン策定のため のアンケート結果(教職員ア ンケート 問6)	
		「こどもまんなか社会を意識した取組を学校でできている」と回答し た教職員の割合	6.5% (R5)	20%	時代の要請に応じた教職員の質の向上が図れているかを判断 する。	次期教育プラン策定のため のアンケート結果(教職員ア ンケート 問7)	
		教職員の仕事をしながら、悩みや苦しさがあると回答した教職員 の割合	69.5% (R5)	35%	教職員間の悩みを減らすことで、教職員のウェルビーイングの 実現につながる。	次期教育プラン策定のため のアンケート結果(教職員ア ンケート 問13)	
		「勤務する学校は、チーム学校としてのチーム力がある」と回答した教 職員の割合	31.4% (R5)	60%	チーム学校のチーム力があることが、教職員のウェルビーイング の実現につながる。	次期教育プラン策定のため のアンケート結果(教職員ア ンケート 問10)	
5 支社と地域、全 体でつなごうと 思っているこ どもを見守り、	KPI		地域や社会をよくするために何かしてみたい と思うこどもの割合	小学生:75.3% 中学生:62.3% (R5年度)	小学生:80.0% 中学生:70.0%	地域や社会をよくするためになにかしたい。=地域とのつな がり測る指標 郷土の視点から理解を深め、シビックプライドの醸成を図る取 組の成果を見るため、指標とするもの。	全国学力・学習状況調査
	【参考指標】 (2)	「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒の割 合	小学生:49.8% 中学生:39.0% (R5年度)	小学生:60.0% 中学生:50.0%	地域の行事に参加する=地域とのつながりを測る指標 郷土の視点から理解を深め、シビックプライドの醸成を図る取 組の成果を見るため、指標とするもの。	全国学力・学習状況調査	
		地域学校協働活動実施校に対して行ったアンケートの結果「教育的効 果が得られた」と回答した学校の割合	77% (R4年度)	前年度以上	地域学校協働活動が教育的効果が得られた=「居心地のよい学 校」を測る指標 地域との連携・協働活動の効果を見るため、指標とするもの。	地域学校協働活動事業実施 校に対して行ったアンケート	